

（協働版）

※（協働版）とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

■翔鸞学区

1 北野天満宮・上七軒周辺

北野天満宮

伝統・文化

お祭り・伝統行事

天神さん

毎月25日に開催される縁日

梅花祭

2月25日(道真の忌日)に開催

瑞饋(ずいき)祭

10月1日から5日までに開催

芋茎で屋根を葺き野菜で飾りつけたずいき神輿が練り歩く



慶長8年(1603年)には出雲阿国が歌舞伎踊りを興行したことから、歌舞伎発祥の地とされている。

歴史的資産・建物



大鳥居(一の鳥居)

北野天満宮の参道にそびえ立つ御影石製の大鳥居。国内最大級を誇る一本石の柱は、かつて長野県から軍用貨車や牛などを使って運ばれた。当初は下ノ森に据えられたがその後現在の位置に移転された。1-1)

伴氏社

北野天満宮境内にある伴氏社の鳥居は、柱の根元に蓮弁が彫り出された珍しいものである。1-2)

東向観音寺(観音寺本堂, 礼堂)

元々は北野社の神宮寺であったが、十四世紀中頃に無人如導が中興して真言宗となり、その後十七世紀になって豊臣氏が北野社を復興した際に当寺も整備されたと伝わる。1-3)

土蜘蛛伝説にまつわる蜘蛛灯籠が奉納されている。土蜘蛛の塚もある。



摂社 地主社

北野天満宮の創建以前からある、境内で最も古い社。天地全ての神々「天神地祇」をお祀りしている。1-4)

自然・環境



紙屋川

北野天満宮西側付近から上流を紙屋川、下流を天神川と呼ぶ。川の名は平安期に、この川のほとりで禁裏御用の紙を漉いた紙座があったことに由来する。1-6)

大杉社

室町時代作成の「社頭古絵図」に、樹齢数百年らしき二又の杉の巨木が描かれており、千年以上の時を経てきたと推定される。後に落雷により二又の幹がくじけ、現在は根幹を残すのみである。1-7)

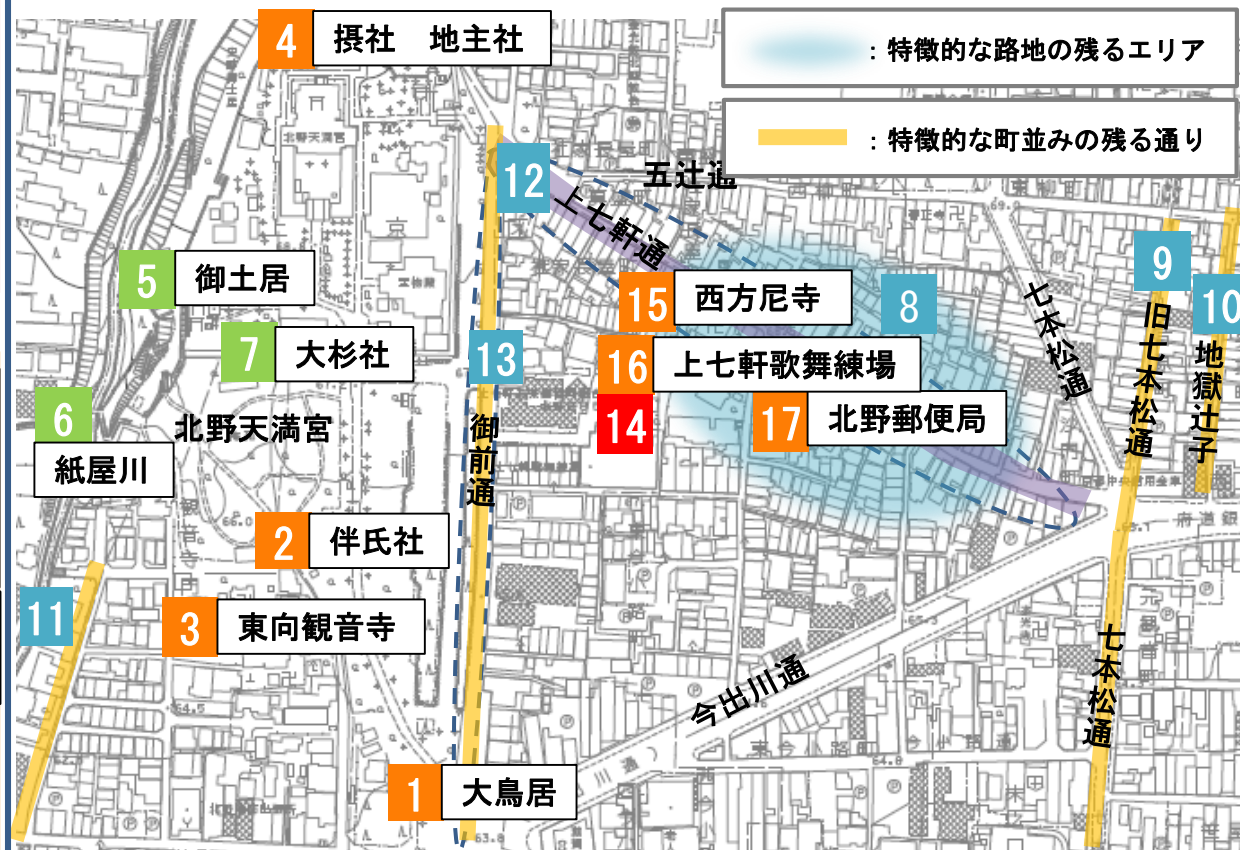
凡例:

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

- 北野天満宮や上七軒の名所旧跡が多く残り、歴史と伝統を感じさせる地域である。
- 北野天満宮は、天暦元年(947)に創建された。菅原道真公を祀り、初詣や梅苑、合格祈願など、全国から多くの方が参詣する。また、北西には今も御土居が残り、当時を偲ぶことが出来る。
- 西陣織業の集中する市街地であり、職・住が共存した趣のある町並み景観を呈している。



: 特徴的な路地の残るエリア

: 特徴的な町並みの残る通り

※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。

京都市 景観情報共有システム

検索

周辺の町並み・風景



西方尼寺路地群
歴史ある茶屋町であり、芸能文化の発展とともに落ち着きのある町並みが形成されている。



旧七本松通

北は五辻通から南は十条通までの小路で、宝暦12年(1762年)刊の「京町鑑」には、「この通りに一株から7本に分かれた松があり」とあり、また平安中期の天暦年間には、「一夜にして7本の松が生えたから」という伝承もある。1-8)

上七軒の交差点から七本松通をのぞむと左大文字がとても綺麗に見える。



地獄辻子(突抜町)

インドからオランダ人を介して渡来した奥織(残留織)の輸入品を唐奥と称したのに対して、地元産の品を意味する地奥と称した。この通りには織物屋が多く立ち並んだため、「地奥辻子」と名づけられた。後に転訛して「地獄辻子」と呼ばれるようになった。1-9)

紙屋川町の屋敷群

敷地割りが大きく、立派な塀を備えた屋敷が建ち並ぶ。大塀造が連続した優雅な町並み景観が形成されている。

上七軒

伝統・文化

14



北野をどり

毎年3月25日から4月7日にかけて上七軒歌舞練場で上演される。フィナーレには『上七軒夜曲』が定番となり、島田髻・黒裾引きに揃えた芸妓と色とりどりの鮮やかな衣装の舞妓がそれに合わせながら踊るのが有名。1-10)

歴史的資産・建物

15



西方尼寺

天台真盛宗の開祖・真盛が開山し、利休が用いたという「利休の井」が本堂前にある。豊臣秀吉が茶味に適合と称賛した京銘菓「真盛豆」が代々伝わっている。上七軒の芸舞妓は当寺で裏千家の茶道を習っている。1-11)

16



17



上七軒歌舞練場

明治中期に建築、増改築を繰り返して昭和26年には現在の形になったと言われる。400席を超える客席は木造、舞台は鉄筋コンクリート造という混構造は他に類を見ない。1-12)

京都北野郵便局

上七軒通に面する木造二階建ての郵便局。もともと住宅として利用されていたが、昭和30年頃に郵便局に改装された。上七軒の町並みにも溶け込んでいる。

道路の美装化実施箇所

12 上七軒通



お茶屋や町家が多く残り、上七軒茶屋として賑わった名残が今も残っている。地元検討委員会と議論しながら、平成25年に電線類地中化、石畳風アスファルト舗装、LEDデザイン照明灯設置などの景観整備事業が完成した。

13 御前通



現在整備中

通り名は北野天満宮の前を通るため。一条通から南は平安京の西大宮大路に当たる。1-13)

北野天満宮の「一の鳥居前広場」と御前通を石畳風に舗装する計画。完成すれば、花街の風情が残る上七軒通から御前通にかけて一帯で、石畳風の道を楽しめるようになる。(令和元年8月時点整備中)

■翔鸞学区

2 千本釈迦堂周辺

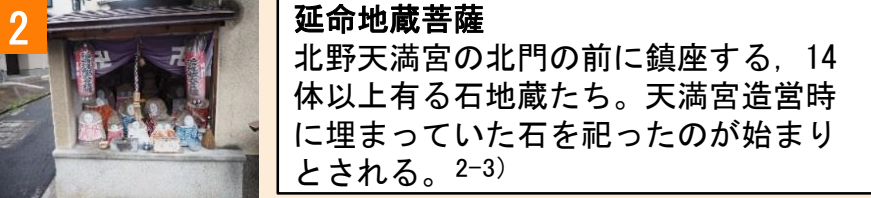
凡例：
まち歩きやヒアリングによる情報等
文献等による情報

歴史的資産・建物



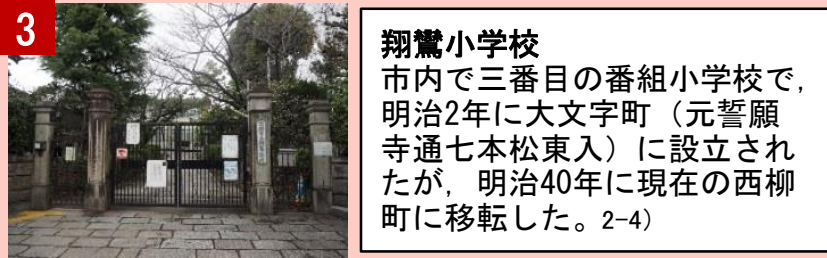
大報恩寺（千本釈迦堂）
鎌倉時代初期の安貞元年（1227）に創建され、本堂は洛中最古の木造建築として国宝に指定されている。本尊の釈迦如来像を安置するところからこの呼び名がついた。2-1)

おかめ塚
本堂の造営の際、棟梁である高次が、柱の寸法を切り誤り悩んでいるのをみかけ、「斗ぐみ」を施して高さを調節することを提案したのが「おかめ」。自分が提案したと世間が知れば夫の評判に傷がつくと思い、上棟式の前に自害した。「おかめ招福」で幸福・子授け・夫婦円満など功德、また工事の安全祈願としても信仰がある。2-2)



延命地藏菩薩
北野天満宮の北門の前に鎮座する、14体以上有る石地藏たち。天満宮造営時に埋まっていた石を祀ったのが始まりとされる。2-3)

教育施設
古くから住宅が密集しており、住民の教育意識も高く、早くから教育施設が充実している。幼児教育の関心も高く、幼稚園、保育園、小学校ともに長い歴史を有する。



翔鸞小学校
市内で三番目の番組小学校で、明治2年に大文字町（元誓願寺通七本松東入）に設立されたが、明治40年に現在の西柳町に移転した。2-4)

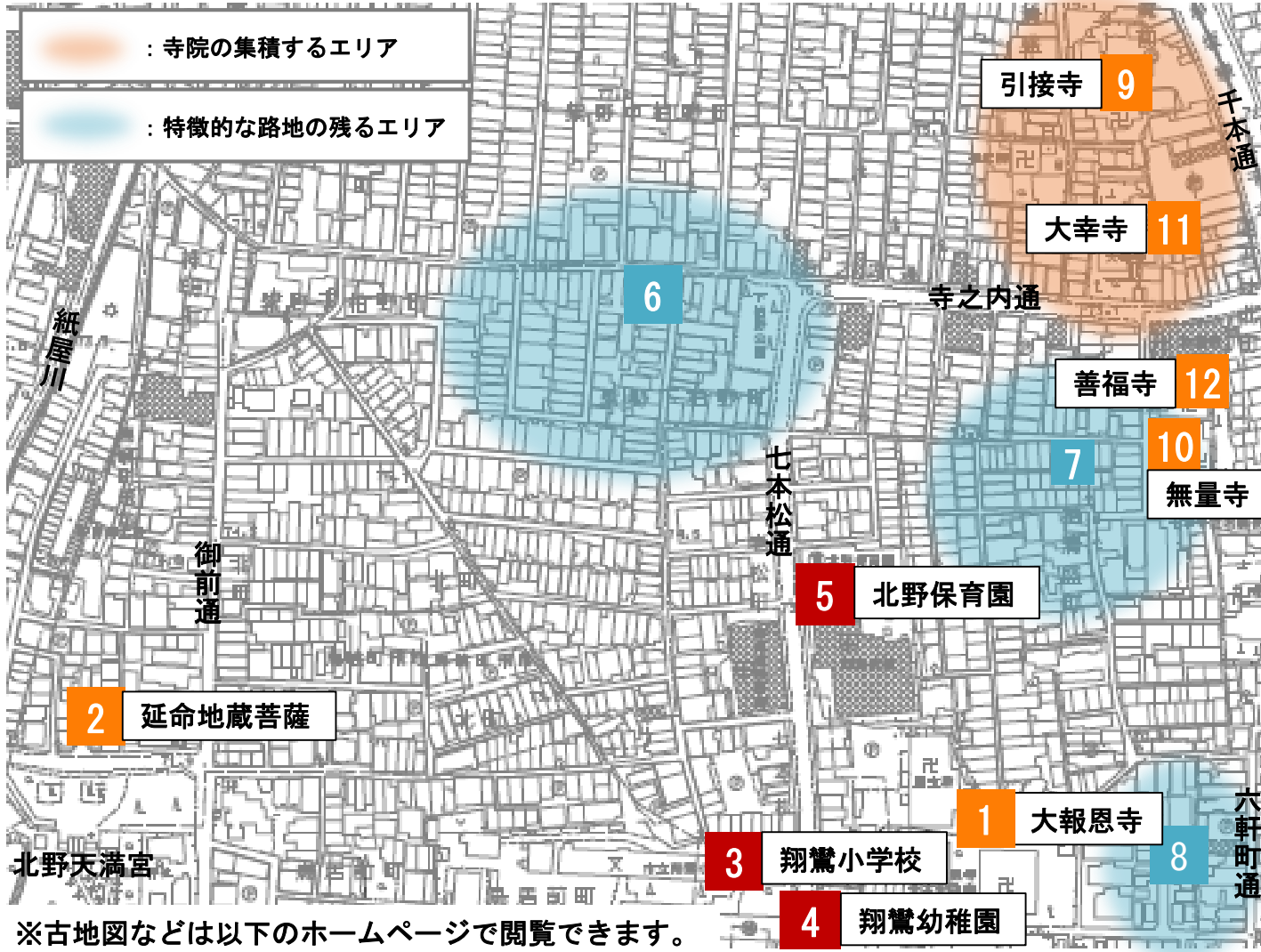


昭和13年頃の写真

市電が廃止となった際に不要となった敷石を譲り受け、校門から校舎入口までの舗装として敷きつめている。

【周辺の特徴】
・千本釈迦堂周辺は学区の中でも特に住宅が密集しており、古くから人々の暮らしが発展している地域。そのため早くから、翔鸞小学校、翔鸞幼稚園、北野保育園などの教育施設が充実しており、現在も多くの子供達の姿が見受けられる。
・昭和期に一斉に開発された町家と数多くの路地が残る。

【翔鸞の名前の由来】
中国の『初学記』の書中に中国の神鳥とされる鳳凰の雄を鳳、雌を凰その雛を鸞とされているそうである。つまり、鳳凰の雛鳥（鸞）が成長して、大空に飛翔するということである。また、平安京の大極殿応天門の回廊の一端にそびえた翔鸞楼の名をとったものという説もある。『翔鸞小学校創立150年誌』



※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。

京都市 景観情報共有システム

検索

町並み・風景



昭和8年頃の写真



創設当初の写真



町家の多く残る地域
柏野学区を含む広い範囲で低層の町家が連担して多く残る。通りによっては町家の保存率が高く、優れた通り景観を残している。



路地の多く残る地域
通り抜けができる路地が残るエリア。車が通るのが難しいので、その風情は路地そのものの景観となっている。機織りの音が聞こえる地域でもある。



町家の多く残る地域
六軒町通に面した町家には立派なものが多く、大型町家も多数残っている。道幅も広く、路地のある町並みとはまた違った風情が残る地域である。L字型路地も見られる。



仮製地形図（明治中期）

路地の成り立ちについて
明治中期と現在の地図を比較すると、翔鸞地域の市街化が進む前の状況が読み解ける。北野天満宮より東の地域はまだ建物が密集しておらず、現在の複雑な路地地域と主街路との発生が別であることが読み取れる。

寺院が集積するエリア
寺之内通の両側には寺院が集積している。寺之内通は豊臣秀吉による京都市街改造後に開通し、「坊目誌」には「天正13年より18年まで豊臣秀吉命じて市中に散在せる寺院を、京極寺町安居院の旧地等に移転せしむ。寺之内と称す。」と記されている。



引接寺(千本ゑんま堂)
寺伝では寛仁年間（1017～1021年）に源信の弟子の定覚が開創して大念仏をはじめたのが起こりとされる。

本堂には閻魔王坐像と地藏菩薩立像を安置し、堂内は冥府を書いた壁画で飾られ、閻魔王宮を模している。境内には、石造十重塔(重要文化財)や鋳銅製の梵鐘(京都市指定有形文化財)を備えた鐘楼がある。



千本閻魔堂大念仏狂言（京都市登録文化財）は5月1日から4日間、境内の狂言堂で演じられる。壬生寺・清涼寺（嵯峨釈迦堂）・神泉苑とともに大念仏狂言として知られる。2-5)

境内にある普賢象桜は、桜の花が普賢菩薩の乗る象のようであることが由来。



無量寺
本尊は円仁作と伝わる阿弥陀如来。四十八願所の第9願所。正保2年（1645年）然誉覚円が創建。享保15年（1730年）西陣焼けで消失し、のちに再建。2-6)



大幸寺



善福寺

■翔鸞学区 3 上七軒南

凡例：

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報

歴史

京都市電堀川線
京都電気鉄道（京電）が明治期に中立売線、北野線、堀川線及び西洞院線として建設した狭軌路線。大正7年（1918年）に京都市に買収された。京電の路線は敷設可能な道幅がある既存街路や暗渠化された川の上に建設されたため、各所で屈曲を繰り返していた。北野線は京都駅前から北野天満宮前までを結んでいた。3-1)



京都子ども文化会館（エンゼルハウス）
市電の車庫跡地に昭和57年に竣工した施設。外壁には当時の路線図や駅名などを記したモニュメントがある。

昭和初期の
北野終点風景当時の名残を残す
路面電車の案内板

下ノ森参道
現在の大鳥居から南東に200メートル、京都府警察官舎が建ち並ぶ敷地の片隅に石碑がある。下ノ森と呼ばれるこの場所は、かつて北野天満宮の神苑（境内）で、1966年に大鳥居が現在地に移るまでここにあった。3-2)



※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。

京都市 景観情報共有システム

検索

町並み・風景

特色の異なる路地や町家の残る町並み
路地空間が多く残り、沿道の建物と一体となった歴史的な町並みが形成されている。

昔ながらの路地の活用事例

路地を活用した
地蔵盆や子供たちの遊びが、今も受け継がれ、路地の風景が地域に根付いている。

滝ヶ鼻町の路地
賑やかな一条通の商店街から路地を北進すると、職住一体型の町家が建ち並ぶ地域。



若松町の路地
六軒町通から路地を東へ入る。路地は、地域の生活が根付いた空間である。



烏丸町の路地
2階建ての町家が多く見受けられる。



笹屋町の町並み
鎌田邸（歴史的意匠建造物）梶尾家（有形文化財等指定）等の歴史的な意匠を残した表屋造の町家や高塀等が多く残る。

歴史的資産・建物

伝統や文化を感じる寺院が多く有り、地域の人々の多くが参拝している



清和院

清和天皇ゆかりの寺。真言宗智山派に属し創立の時期は不明だが、平安時代に遡る古刹の流れを汲むものと言われている。重要文化財に指定されている木造地蔵菩薩立像は、高さ167センチ、玉眼入り、極彩色の精緻な鎌倉時代の作である。3-3)



浄土院

湯たく山茶くれん寺と呼ばれている浄土宗の尼寺。寺伝では豊臣秀吉が北野大茶会の途中、この寺に立ち寄り、茶を所望したところ、住持が茶の湯に未熟なために白湯ばかり供するので、秀吉はますます茶を要求した。その為「湯沢山、茶くれん寺」という異名が付けられたという。3-4)



上善寺

貞観5年（863年）に慈恵の開基になる天台真盛宗の寺。度々の火災に由緒が明らかではないが、文明15年（1483年）になって盛信が再興し、中興の祖となっている。永禄9年（1566年）後柏原天皇の勅願所となり、文禄3年（1594年）に現在の位置に移った。3-5)



お別れ地蔵

木造寄せ木造りの地蔵尊で江戸中期の作と伝えられている。この地が当時は火葬場に通ずる道だった事から、市中から来た葬列はこの地蔵尊の前にて一応の別れを告げたためこの名が付いたとされる。3-6)

地域活動

「翔鸞学区防災まちづくり計画」の策定

平成28年には学区防災まちづくり協議会が中心となり、『災害に強く、安心して住み続けられるまち』の実現に向け、みんなが主体的、継続的に防災まちづくりを進めるための方針や具体的な取組を取りまとめたものとして、「翔鸞学区防災まちづくり計画」を作成している。



路地の安全性向上のための取組も進められている

古いブロック塀
をつくり替え緊急避難
扉の設置防災広場
を整備

北野天満宮・上七軒周辺

- 1-1 『翔鸞小学校創立150周年記念誌』 創立150周年実行委員会
- 1-2 同上
- 1-3 『京 上京探訪～語り部と歩く1200年 祈りと芸能の原点、翔鸞を視る』 京都市上京区所
- 1-4 北野天満宮HP
- 1-5 『京 上京探訪～語り部と歩く1200年 祈りと芸能の原点、翔鸞を視る』 京都市上京区所
- 1-6 『翔鸞小学校創立150周年記念誌 創立150周年実行委員会』
- 1-7 『京 上京探訪～語り部と歩く1200年 祈りと芸能の原点、翔鸞を視る』 京都市上京区所
- 1-8 旧七本松通 現地駒札, 案内版
- 1-9 『京 上京探訪～語り部と歩く1200年 祈りと芸能の原点、翔鸞を視る』 京都市上京区所
- 1-10 北野をどり公式HP
- 1-11 『京 上京探訪～語り部と歩く1200年 祈りと芸能の原点、翔鸞を視る』 京都市上京区所
- 1-12 上七軒歌舞練場 現地駒札
- 1-13 『京都市の地名』（昭和54年）平凡社

千本釈迦堂周辺

- 2-1 『京 上京探訪～語り部と歩く1200年 祈りと芸能の原点、翔鸞を視る』 京都市上京区所
- 2-2 『翔鸞小学校創立150周年記念誌』 創立150周年実行委員会
- 2-3 同上
- 2-4 京都市HP 指定・登録文化財―無形民俗文化財―
- 2-5 『翔鸞小学校創立150周年記念誌』 創立150周年実行委員会
- 2-6 同上
- 2-7 同上

上七軒南

- 3-1 『翔鸞小学校創立150周年記念誌』 創立150周年実行委員会
- 3-2 同上
- 3-3 同上
- 3-4 同上
- 3-5 同上
- 3-6 東紙屋町町内会 現地駒札